

施策マネジメントシート(平成27年度の振り返り、総括)

作成日 平成 28 年 6 月 20 日

基本目標	I	誰もが安心して安全でゆとりを感じるまち	主管課	名称	地域整備課
				課長	上田 宜実
施策	12	道路の雪対策の推進	関係課		

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図
①町内の道路利用者		①冬期間において、安全に道路を利用できる。	1 冬期間の通行の確保	町内の道路利用者	冬期間において、通行に支障のない道路が提供される。
			2 冬期間の安全運転の推進	車両運転者	冬期間における交通事故が減少する。
			3		
			4		
			5		

成果指標	成果指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	
A	冬期間における交通事故発生件数	件		273	263	269	227	143		
				目標値	200	200	200	200	200	200
B	雪による通行止め件数	件		0	0	2	3	0		
				目標値	0	0	0	0	0	0
C	除雪等に関する情報・苦情件数	件		60	34	466	105	100		
				目標値	50	45	40	35	30	25
D				実績値						
				目標値						
E				実績値						
				目標値						
F				実績値						
				目標値						

指標設定の考え方 実績値の把握方法	A) 直接的な設問であり、件数が減れば目的が達成されているといえるため成果指標とした。ただし、降雪が交通量の多い週末等に重なると対象指標の数に大きく影響すると思われる事から注意が必要である。 (沼田警察署の資料による)
	B) 急な降雪や雪崩等の心配により通行止めが発生すると、安全に道路が利用できているとはいえないため成果指標とした。また、その年の異常気象等も把握する事が出来る。 (主管課で実数を把握)
	C) 情報・苦情の中でも苦情については道路状況に於いて不快・不便を感じたものであり道路の除雪融雪及び維持管理が適切に行われていないための成果指標とした。ただし、降雪量などの気象条件の影響が大きいことに注意が必要である。 (主管課で実数を把握)
目標値設定の考え方	A) 成り行きでは、過去4年間(H20～H23)の平均値とする。徐々に減らしていくといった数値ではないのでH25から毎年200件以下を目指す。 B) 雪による通行止めは0件をめざす。 C) 処理能力の高い除雪機械の導入すると共に、職員を始め業者を含めた中での除雪従事者の経験・技術等の育成に努め、町民のニーズに合った、除雪及び排雪等を迅速に行える様にし、除雪に対する苦情件数を減少させる(過去の経緯から、件数はばらつきがあるが平均値として50件を基準と設定)。毎年度5件づつ減少させ、半数となる25件をめざす。

施策のための目的・役割分担	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	①住宅周りの雪を処理する。 ②地域ぐるみで除雪態勢を考え、地域除雪に協力する。 ③雪道の特性を理解した運転に心掛ける。	①降雪状況を把握して安全で迅速な作業(除雪、融雪剤、凍結防止剤散布等)を実施する。 ②除雪作業に必要な協力の呼びかけ(PR、広報)地域除雪に対して支援を行う。 ③危険箇所の周知看板等の設置・点検・修繕を行う。 ④ホームページ等を活用した情報提供を行う。

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	平成25年2月の豪雪を教訓に国、NEXCO、県、市町村等の関係機関で群馬県道路除雪会議を開催し、大雪時は道路管理者が連携した対応がとれる体制が構築され、年に一度統一訓練を行っている。	①除雪に関して不満を抱く町民の割合は降雪量と関係なく約6割と高い。住民の期待にすべて応えることは難しいと考えている。 ②町の特性として、冬期間常時積雪がある地区よりも、降雪量の少ない地区の住民から一時的な雪に対して苦情が集中する。 町民アンケートによると、除排雪に対する不満感じている58.5%の具体的内容は、I 除雪状況が悪い52.4%、II 対応が遅い51.1%、III 除雪した雪の処理が不十分44.9%、の順となっており、II、IIIが逆転した。降雪量の少ない地区からの意見が多い状況である。IVでは雪を捨てる場所がない28.6%と住民自ら行う除雪に対しての意見になっている。 ③融雪施設等のランニングコストの削減について、議会から検討が求められている。

施策	12	道路の雪対策の推進	主管課	名称	地域整備課
				課長	上田 宜実

		実績比較	背景・要因
施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	① 時系列比較	<input type="checkbox"/> かなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。 <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> どちらかといえば低下した。 <input type="checkbox"/> かなり低下した。	① 冬季の交通事故発生件数は、平成25年度269件、平成26年度227件、平成27年度143件と暖冬ということもあり前年度から84件ほど減少した。事故原因としては雪道に対する認識不足(スピードの出し過ぎ、雪用タイヤの過信等)と考えられる。 ② 雪による通行止め件数は平成25年度2件、平成26年度3件(内1件については計画的に冬期閉鎖)、平成27年度は暖冬のためすべての路線で除雪が間に合い0件であった。 ③ 除排雪に不満を抱く町民の割合は、平成25年度65.9%、平成26年度60.8%、平成27年度58.5%と推移している。地区別にみると、月夜野地区が60.8%と最も高く、水上地区57.2%、新治地区55.2%となっている。不満の内容を地区別にみると、月夜野地区で「対応が遅い」、「状態が悪い」、「雪の処理が不十分」の割合が高くなっており、水上地区では「除雪状態が悪い」、新治地区では「雪の処理が不十分」が高い割合となっている。平成27年度の降雪量は、記録的な暖冬に見舞われたにもかかわらず不満の感じ方がほとんど変わらず住民の除雪への要望が多様化している傾向にあるように思える。
	② 他団体との比較	<input checked="" type="checkbox"/> かなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準である。 <input type="checkbox"/> かなり低い水準である。	① 除雪対象路線延長、除雪費用は県内トップクラスで、降雪量も同様に多く豪雪地域の指定を受けている。 ② 市町村によって気温などの気象や路線などの条件が異なるため、それぞれに適した方法により除雪・消雪処理を行っている。 ・当町は、面積が広く地域によって条件が大きく異なるため、地域ごとに基準を設定し降雪時の出動体制を確立している。また、町の職員が除雪対応している市町村は少ない。なお気象観測システム、除雪車運行管理システムを導入しHPにおいて情報発信を行うなど他団体と比べ優れている。 ・片品村では、無散水施設と、除雪による対応である。 ・湯沢町では、地下水があり気温も高く、ほとんど散水消雪施設で対応している。 ・沼田市は幹線道路が対象で坂道には無散水・散水消雪対応しておりその他の路線においては除雪対応である。
	③ 目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。	① 冬季間の交通事故発生件数は、降雪日の曜日、降雪量により変化するものの目標値を下回っている。 ② 除雪等に関する情報・苦情件数は記録的な暖冬にもかかわらず前年度とほぼ同じであり、住民の除雪に対する要望等多様化してきている状況である。 ③ 通行止め区間についても、暖冬のため発生しなかった。
(事務事業)の総括	① 補助事業の除雪機械購入事業で新治地区に除雪ドーザの更新配備を行った。また単独でも月夜野地区に5t級の除雪ドーザ並びにバケットから排土板へ改造した車輛1台を増強し作業効率が特段向上した。 ② 無散水施設の電源管理を行う臨時職員を2名雇用し、こまめに入り切りを行うことにより、電気代の節約に取り組んだ。また、施設の間欠運転(30分稼働15分停止)を試験的に行った。 ③ 地域除雪支援体制が整いローダー、手押し小型除雪ロータリ(計6台)を5地域(師田地区・羽場地区・猿ヶ京温泉地区・和名中地区、竹改戸地区)に貸し出した。藤原道の会へ車載式砂捲き機を貸与し、降雪時及び凍結時に散布した結果、粟沢地区以北の事故件数の減少に繋がった。 ④ 除雪機械購入事業で更新した除雪機械を、管理替えにより委託業者に貸与し、作業効率の向上に繋がった。 ⑤ 気象観測装置により、町内の降雪、積雪状況や降雨量の情報をリアルタイムに発信した。 ⑥ 除雪車管理システムにより除雪作業状況の情報発信を行う事により除雪状況の問合せ件数の減少及び問合せに関しても迅速に対応できるようになった。 ⑦ 暖冬のため除雪作業の回数は少なかったが、施設の不具合を発見し修繕することができた。		

		基本事業名	今後の課題	平成29年度の取り組み方針(案)
今後の課題と次年度の取り組み方針(案)	1	冬期間の通行の確保	① きめ細やかな除雪体制の構築 ② 地域支援除雪の体制整備の拡大 ③ 地域間連携除雪体制整備 ④ 除雪機械の効果的な更新 ⑤ 除雪機械の夏季の保管場所等の整備計画の推進	① 中期除雪計画の見直しを行う。 ② 地域支援除雪等除雪内容及び地域にあった除雪体系の見直しを行う。 ③ 補助機械の増強により除雪車の整備を促進する。 ④ 効率のよい除排雪を行う。 ⑤ 除雪機械の夏季の保管場所等の整備計画の策定に着手する。
	2	冬期間の安全運転の推進	① 路面状況等の情報提供 ② 消・融雪施設の効果的な運用方法の研究 ③ 散水消雪施設の整備更新計画の推進	① 情報システムの内容を精査し、わかりやすいホームページの検討を行う。 ② 消・融雪施設区間を再検証し、ランニングコストの削減等を再検討する。 ③ 散水消雪施設の整備更新計画の策定に着手する。
	3			
	4			

## 12 道路の雪対策の推進

12-01-000001		担当組織	地域整備課 除雪センターグループ			事業費	79,782,665円				
道路除排雪事業		予算科目	会計	一般会計	款	8土木費	項	2道路橋梁費	目	5除雪費	
事業概要	事業の意図	除雪計画に沿った除排雪に必要な委託業者への発注及び地域支援除雪団体の発掘や直営除雪の人員を確保し安全な除雪作業を進める。		平成27年度			単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性	
				除雪作業員の人数			12		人	<input type="checkbox"/>	有効性
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案		継続的な除雪作業従事者の確保と技術向上を図るための研修制度を実現する。			課題とその解決策	継続的な除雪作業従事者の確保のためには、通年の雇用が必要となりコストが増加する。			

12-01-000002		担当組織	地域整備課 除雪センターグループ			事業費	27,367,145円				
除雪機・除雪車等維持管理事業		予算科目	会計	一般会計	款	8土木費	項	2道路橋梁費	目	5除雪費	
事業概要	事業の意図	除排雪に必要な機械を整備し冬期間利用出来る様にする		平成27年度			単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性	
				1年点検整備台数			18		台	<input type="checkbox"/>	有効性
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案		概ね現行どおり			課題とその解決策	補助事業への該当車両は限られる事から、単独事業費を用いた計画的な安定確保が課題である。委託内容と直営対応内容を、長期的視野で検討して使用機械の整備目標(計画)を定めることが望ましい。			

12-01-000003		担当組織	地域整備課 除雪センターグループ			事業費	29,039,438円				
除雪機・除雪車等整備事業		予算科目	会計	一般会計	款	8土木費	項	2道路橋梁費	目	5除雪費	
事業概要	事業の意図	冬季除雪に必要な機械を確保する		平成27年度			単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性	
				町使用機械台数			41		台	<input type="checkbox"/>	有効性
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案		概ね現行どおり			課題とその解決策	補助事業への該当車両は限られる事から、単独事業費を用いた計画的な安定確保が課題である。委託内容と直営対応内容を、長期的視野で検討して使用機械の整備目標(計画)を定めることが望ましい。			

12-01-000004		担当組織	地域整備課 除雪センターグループ			事業費	53,024,850円				
消融雪施設維持管理事業		予算科目	会計	一般会計	款	8土木費	項	2道路橋梁費	目	5除雪費	
事業概要	事業の意図	施設が正常に稼働する		平成27年度			単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性	
				不動産数			1		箇所	<input type="checkbox"/>	有効性
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案		気象条件の関係で稼働時間は増えているが、手動にて操作しているため、電気料の抑制につながっている。			課題とその解決策	現状維持			

## 12 道路の雪対策の推進

12-01-000005		担当組織	地域整備課 除雪センターグループ			事業費	円			
<b>地域除雪支援事業</b>		予算科目	会計		款		項		目	
事業概要	事業の意図	安心・安全な道路の状態確保及び維持		平成27年度			単位	○	目的妥当性	
				実施地域数			6	箇所	×	有効性
								○	効率性	
								○	公平性	
総括と今後の方向性	全体総括	他地域への拡充を前提にした運用要綱の精査制定が急務となる	今後の改革改善案	広く町民に地域支援事業を広め地域活動の輪を広める。			課題とその解決策	必要な機材の取得・手配と協力地域に本事業趣旨を正しく認識いただき実施すること。		

12-01-000007		担当組織	地域整備課 除雪センターグループ			事業費	3,508,522円			
<b>除雪情報システム管理事業</b>		予算科目	会計	一般会計	款	8土木費	項	2道路橋梁費	目	5除雪費
事業概要	事業の意図	除雪等に関する情報・苦情件数の削減除雪作業をホームページで公表する情報提供		平成27年度			単位	○	目的妥当性	
				苦情件数			100	件	×	有効性
								×	効率性	
								-	公平性	
総括と今後の方向性	全体総括	本年度導入したが冬期間においては試作段階でありシステム運用事態模索を続けている様であったため今後の利用によりシステムの活用が図れるものと思われる	今後の改革改善案	0			課題とその解決策			

12-02-000001		担当組織	地域整備課 除雪センターグループ			事業費	57,400円			
<b>チェーン脱着所管理事業</b>		予算科目	会計	一般会計	款	8土木費	項	2道路橋梁費	目	5除雪費
事業概要	事業の意図	目的達成のため借用し使用する。		平成27年度			単位	○	目的妥当性	
				借り上げ件数			1	箇所	×	有効性
								×	効率性	
								○	公平性	
総括と今後の方向性	全体総括	現状維持。	今後の改革改善案	現状維持			課題とその解決策	現状維持		

12-02-000002		担当組織	地域整備課 建設グループ			事業費	3,423,935円			
<b>気象観測システム管理事業</b>		予算科目	会計	一般会計	款	8土木費	項	2道路橋梁費	目	5除雪費
事業概要	事業の意図	観測局の設置箇所数を増設することにより、より住民に適した観測を行うことができホームページのアクセス件数の増加が見込まれる。		平成27年度			単位	○	目的妥当性	
				観測局設置箇所数			13	箇所	×	有効性
								○	効率性	
								○	公平性	
総括と今後の方向性	全体総括	平成25年度において観測局の設置工事が13箇所完了した。今後も観測局の設置箇所を増やせばより多くのアクセス数も増大する事が見込まれるが事業費に対してのアクセスがあるかは想定できない。平成26年度より気象装置等の維持管理を行うだけで、事業費を削減できない。冬期間のホームページ閲覧数が増加しているため、観測局を増設する可能性もある。	今後の改革改善案	今年度設置した観測局数で数年間運用し、観測が必要な箇所があれば、随時増設していくことが効果的に事業を進めることができると思う。			課題とその解決策	管理面積の広いみなかみ町では、全体的に気象観測をする事が非常に困難であると思う。観測局毎に維持管理費用がかかるため、なるべく少ない設置箇所が望まれる。		